

これで解決！ みんなの臨床研究・論文作成

辻本哲郎・著

【評者】 家 研也

(聖マリアンナ医科大学川崎市立多摩病院准教授・
総合診療内科)

臨床研究や論文執筆に取り組む上で、避けて通れない「壁」がある。この壁はさまざまな場面で、姿かたちを変えて繰り返し出没してわれわれの心を折ろうとする。私自身、研究に取り組み始めた当初から、数えきれない壁を経験した。研究テーマ探し、文献検索、研究計画書作成、データ収集、統計解析、論文の書き方、投稿先探し、rejectに心が折れる経験、意地悪な査読の対処、そもそも忙しくて研究が進まない！ など、多岐にわたる。思い返すと、それらの場面で壁を乗り越える手助けを常に誰かがしてくれた。それは指導医・メンターに限らず、仲間、後輩、時に書籍であったりもした。このように、初心者が臨床研究を論文化するまでは手取り足取りの指導が必要な場面だけである。

本書は臨床医でありながら50編近くの原著論文を筆頭著者として世に送り出し、さらに多くの後輩の研究を指導してきた辻本哲郎先生による、気持ちがいいまでの「実践の書」である。臨床研究デザインや統計解析、論文作成に関する本は多数存在するが、本書の特徴を端的に表すと「身近で面倒見の良い先輩」である。研究初心者がつまづく壁一つひとつについて、具体的にステップを示してくれる。特にコラムが秀逸で、臨床研究の現場のリアルがそこにある。臨床現場の一隅で隙

A5判・196頁
2021年10月
定価：3,960円
(本体3,600円＋税)
ISBN978-4-260-04778-4
医学書院刊



間時間に取り組む研究の場で、面倒見の良い先輩が失敗談やコツを共有し、曖昧だった概念の理解を助け、次に何をしたら良いか具体的に示してくれる。そんな頼れる先輩を常に座右に置いておけるような一冊である。

本書のもう一つのおそらく目立たない特長は、第1章「臨床研究をしよう」で扱われる臨床研究をする上で押さえるべき基本情報の洗練度合いにある。研究デザインごとの要点や交絡因子とは？、リサーチクエスションの作り方など、サラリと記載されすぐに読める。ところが、中身は極めてガチである。ガチをわかりやすく伝える、これは誰でもできることではない。私自身、海外の公衆衛生大学院でそれなりの労力を割いて統計学や疫学を習得したため、皆さんには本書のお得感を強調しておきたい。

本書は、研究に取り組みたい/取り組んでいるが研究計画が具体化できない、次に何をすれば良いかわからない、すぐ相談できる指導者がつかまらない、といった医療者に特にお薦めできる。さらに、研究指導の実践に悩む全ての指導者にとっても、指導ポイントや研究指導全体の流れを盗む意味でお薦めである。本書を座右に、臨床研究や論文作成の楽しみを味わうことのできる医療者が一人でも増えることを期待している。